資料３

【地域ケア推進会議（H30.2.27）まとめ】

「高齢者を支える人が身近にいなくて困っている」

地域ケア個別会議の事例から共通して見えてきた困りごと

（困っている具体的な状況）

・子供達が遠方に住んでおり、めったに帰ってこない。
・周囲に家が無い。（声かけ・見守りをする人がいない）
・集落みんなが高齢者である。
・本人に認知症があり、関わった人が悪者（被害妄想）になるので手出しできない。
・転入者で近所に親戚がいない。
・元気な頃から近隣との交流がない。
・認知症があり、近隣者への被害妄想がある。
・子供・身寄りが誰もいない。
・子供に障害があり、支援が望めない。
・支援をしていた人が、支援の必要な状態になった。

地域ケア推進会議で見えてきた困りごと

（困っている具体的な状況）

・子供が単身で手助けを望めない
・周囲の認知症への理解が低い
・助け合う者同士が高齢化し助け合うことが難しい
・在宅の支えの要となるヘルパーの人材不足（人材確保が困難）
・本人は「今住んでいるところにいたい」、子供は「自分のそばに引き取りたい」とお互いの思いが異なり、ぶつかってしまう

上記の意見から支援の方向性を以下の３つの視点にしぼりました。（高齢者本人の目線で）

①日ごろの支援をしてくれる人がほしい。

②自分の身の振り方を一緒に考えてくれる人がほしい。

③認知症になっても住み慣れた家で暮らしたい。

この視点の中で、①について話し合いをおこないたいと思います。
別紙　に皆さんの意見をお聞かせください。